

## 南アフリカ 生食用ブドウの輸出は2023/24年度に17%増加

[FreshPlaza 2024年4月15日](#)

南アフリカの2023/24年度シーズンの生食用ブドウの出荷量は改訂予測とほぼ一致し、シーズン末までの検査数量は合計7,570万箱、輸出数量は合計7,350万箱であった(4.5kg/箱換算)。

今般SATI(南アフリカ生食用ブドウ産業協会)のCEOを退任するA. J. グルーゼル氏は、「一般的な受け止めとしては、今シーズンは物流上の問題のために機会を逃したということであるが、同時に、ほとんどの生産者は全般的に許容できるシーズンだったと感じている」と述べた。同氏は、2023/24年度シーズンは物流上の課題が浮上し、船会社、物流関係者及び出荷業者が協力して代替策を見つける必要があったと言う。

今シーズンの当初の予想出荷量は7,300万箱であった。その後、オレンジ川流域で予想よりも収穫量が多く、合計2,420万箱を梱包したため、この予測は2024年1月に更新された。

過去10年間で、南アフリカの生食用ブドウ産業は、検査数量で年2.7%(複利計算)の成長を記録した。

2023/24年度シーズンは、その中盤から後半にかけてのヘックス川流域での天候パターンの変化と降雨により、昨シーズンよりも2~3週間早く終了した。

SATIのジャック・フェレイラ商務部長は次のように述べている。

「2023/24年度の生食用ブドウ輸出シーズンに最悪だったのは、おそらくコンテナ船MSCマッティーナ号とサンタクララ号の遅延であろう。カナダ/アメリカ向けに約50万箱を輸送したMSCマッティーナ号は、昨年の第52週(年末)にケープタウン港多目的ターミナル(CTMPT)でのクレーンの故障により大幅に遅延した。400万箱以上を輸送したサンタクララ号は今年の第2週に生じた遅延により、果実を積んだ600以上の冷蔵コンテナを置き去りにせざるを得ないところであった。」

「ケープタウン港の負担を緩和するために複数の代替の港が利用された。生食用ブドウの輸出货量全体の10.6%に相当する合計780万箱がポートエリザベス港から輸出され、また9.6%に相当する合計710万箱が非コンテナ船で輸出された。」

「全体として、生食用ブドウの輸出货量は昨シーズンと比較して17%増加した(前シーズンの6,390万箱に対し、2023/24年度は7,350万箱)。一方、ケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)と多目的ターミナル(MPT)を合わせた輸出货量は、前シーズンの5,690万箱から2023/24年には5,390万箱へと5%以上(40フィートコンテナで833本相当)減少した。このシーズン中の昨年の第48週(11月末)から今年の第13週(3月末)までに、合計14隻の非コンテナ船で生食用ブドウが輸出された。」

南アフリカからの輸出品種のうち、最も増加したのは、スイートグローブ(+28%)、オータムクリスプ(+20%)、アーリースイート(+24%)及びアイボリー(+128%)であった。

グルーゼル氏は、「SATIは業界団体として、将来の物流シナリオの改善に役立つ代替手段を模索してきた。それは予測モデルの形であり、トランスノーヴァ・アフリカ社(物流コンサルタント会社)が今回導入しようとするものだ」と述べた。